

中心市街地に築く市民との協働空間…「シティホール」をめざして

～「重い負担で今のまま」より、「軽い負担で新たな価値」を～

1

中心市街地への庁舎移転は、市民の負担を減らす画期的な取り組みです！

- ◆「あぶない」「せまい」。今の市庁舎には深刻な問題が。
- ◆対応にはいずれにしてもお金がかかります。しかし今、中心市街地なら、市民の負担を大幅に減らすことが可能です。

「中心市街地なら・・・」

- ◆国の交付金などで、市民の負担は全体経費（105億円）の3分の1（35億円）ですみます。通常よりも大幅に少ない負担で、長く使える便利な庁舎が整備でき、大変有利です。
- ◆現在地では交付金が出ないため、市民の負担はぐんと重くなります。

（さらに・・・）

- ◆空くこととなる現在の市庁舎は、老朽化した柳原分庁舎の中央公民館などを移転し、「教育ビル」として活用できます。

「あぶない」本庁舎の耐震性は基準の6割しかありません

- ・市役所は災害時に対策本部に。
- ・市役所には、避難所に配置する職員や道路網など様々な情報が。速やかに復旧活動を展開するためには、万全の耐震性が必要です。

「せまい」組織の3分の1が、本庁舎から離れてちり散りに

- ・合併などで本庁業務が膨らみ、すでに組織の3分の1が本庁舎から離れた場所へ分散。
- ・相談室がせまい、配置が分かりにくいなど、市民にご不便をおかけしているほか、事務効率が低下しています。
- ・職員や会議室の削減はもちろん、ITを活用したりしても、スペース不足は解消できません。

2

中心市街地で庁舎を整備することは十分可能です。

- ◆厚生会館地区には、現在のホールを受け継ぐ「平成の公会堂」や「屋根付き広場」、庁舎と駐車場を一体的に整備できる十分な市有地があります。
- ◆駐車場は今より多い500台を計画。来庁者に料金負担はかけません。
- ◆スムーズな交通の流れの確保にも配慮します。
- ◆“長岡の顔”にふさわしい、魅力あるまちづくりをうながします。

◆現市庁舎の補強や増築→45億円の負担に

（しかし・・・）

- 今の庁舎はすでに築30年。
- 耐用年数を50年とすれば、あと20年程度でどちらにしても建替えが必要に。
- これでは補強などにかかるお金の分、かえってもったいないことに。

3

市民と行政が協働でまちづくりを進める、より開かれた市役所「シティホール」を確立します。

- ◆バスなどの便がよく、だれもが集まりやすい中心市街地に、市民が集うホールや広場、市役所が一体となった「シティホール」を築き、市民との協働によるまちづくりをめざします。